

施策 56

基本施策 1 快適で住みやすいまちづくりの推進

地域公共交通の維持とバリアフリー化の推進

めざす姿 (施策の目的)

鉄道やバス、タクシーなどの公共交通ネットワークが効率的・効果的に形成されるとともに、市内の面的・一体的なバリアフリー化が図られ、誰もが快適に移動や施設の利用ができる環境が整っています。

現状と課題

本市では、14駅ある鉄道と路線バス、コミュニティバスにより市中心部への充実した公共交通ネットワークが形成されていますが、運行事業に要する経費は年々増加しているほか、運行事業者の従事者不足が深刻化していることから、利便性の維持を図りながら、持続可能性の高い公共交通ネットワークに再編することが必要です。

また、高齢者数の増加や障害への理解の促進など社会情勢の変化に伴い、鉄道駅を中心とした区域において、面的・一体的なバリアフリー化を推進することが必要です。

施策の方向性

- 府中市地域公共交通計画に基づき、公共交通の役割分担により、市中心部や最寄り駅、主要拠点等への移動を確保し、交通不便地域の発生を抑制するため、地域公共交通ネットワークの再編を進めるとともに、「誰もが自由に移動ができる まちづくりと連携した持続可能な地域公共交通」を目指して、各種施策を推進します。
- コミュニティバスについては、運行を補助するとともに、運賃の検討や路線の更なる効率化、新たな移動手段の活用等を検討します。また、鉄道や路線バスなど他の交通手段との役割分担の検証など、持続可能な事業運営や利便性の維持・向上に向けた検討を行います。
- 府中市バリアフリー基本計画の日常生活圏域別・事業種別のバリアフリー方針に基づき、市全域で生活関連施設*や生活関連経路のバリアフリー化のボトムアップを図るとともに、生活関連施設において、高齢者や障害者、子育て世代など多様な利用者に対し、係員への教育や、利用者への案内・サポート等の対応を充実させることにより、ソフト面でもバリアフリー化を推進します。また、府中駅など市内6駅周辺に設定した重点整備地区においては、公共交通の事業者や道路、大規模店舗等の施設設置管理者が実施する特定事業*等の進捗管理を行う中で、駅周辺の面的・一体的なバリアフリー化を推進します。
- 公共交通の安全性や利便性の向上に向けて、引き続き、交通事業者等に対して要望や意見交換を行うとともに、ホームドア整備等に要する費用の一部を助成するなど、公共交通のバリアフリー化を促進します。また、多摩都市モノレールの延伸など広域交通ネットワークについては、引き続き、関係市と連携を図り、関係機関に対して事業の促進を要請します。

指標

指標名	基準値	目標値 (R11)	指標の説明
公共交通機関が利用しやすいと感じている市民の割合	73.6% (R6)	80%	市民意識調査により把握した、公共交通機関が利用しやすいと感じている市民の割合です。
市中心部に接続する公共交通の1日当たりの利用者数	144,476人 (R6)	159,400人	府中駅及び府中本町駅、並びに府中駅に接続する路線バス及びコミュニティバス等の1日当たりの平均利用者数です。
鉄道駅周辺のバリアフリー環境に満足している市民の割合	40.9% (R7)	60%	市民意識調査により把握した、鉄道駅周辺のバリアフリー環境に満足している市民の割合です。

主要な取組

取組名称	令和8年度から11年度までの取組内容
地域公共交通計画推進事業 重点	令和8年度(2026年度)にコミュニティバス等の路線の再編を実施し、利用状況等を評価・分析するとともに、再編後の利用者数や収支率に応じた路線の再修正や使用車両の転換の検討を行います。また、既存の公共交通以外の新たな移動手段の活用や利便性向上のためデジタル乗車券の導入などを検討します。
コミュニティバス運行等補助事業 重点	運行事業者の効率的で安定的な運行の支援や停留所の待合環境の改善を実施するほか、分かりやすい利用案内を作成するなど、更なる利用の促進に向けた事業を実施します。
バリアフリー基本計画推進事業	重点整備地区における特定事業計画の進捗管理を行うとともに、道路や公共交通、大規模店舗等の特定事業の実施段階において、障害者等が参画する機会を設け、当事者意見を取り入れたバリアフリー化を促進します。
鉄道駅整備事業	鉄道事業者が実施するホームドア等のバリアフリー整備事業に対して、その費用の一部を助成します。

協働により推進したい取組

- ▶ 持続可能な公共交通ネットワークの形成及びバリアフリー化の推進に関すること。